



現職教員と ストレート マスターが 共に学ぶ

を重ねながら、生徒指導の知見と結び付けたいと考える学生が多いのもうなずけます。

授業実践リーダーコースと生徒指導実践開発コースは年々、学部を出てそのまま入学してくるストレートマスターが増えている。生徒指導実践開発コースは今年度、これまで7対3だった現職教員とストレートマスターの割合が5対5になった。

新井教授

ストレートマスターが多いのは学校現場に出る上で生徒指導に不安があるからではないでしょうか。教科については内容等が学習指導要領に明示されていますが、生徒指導にはそれがありません。実習での体験

ストレートマスターが現職教員と机を並べるメリットは大きい。教員の先輩として知識や技能、仕事に取り組む姿勢など多くのことが学べる。

一方、現職教員にとっても、ストレートマスターの従来の概念にとらわれない考え方が研究に新たな発見をもたらすケースもある。

黒石教授

ミドルリーダーは学校現場で新人教育を担当することもあります。ストレートマスターとのコミュニケーションを通して、若い人の価値観や考え方が分かり、新人教員を育てていく点でも有効だと思います。



教職大学院で学ぶ 意義と夜間クラス

ミドルリーダーは校務でも重責を担うことが多く、職場を離れて教職大学院で自分の課題に向き合うのはなかなか難しいのが実情だ。神戸サテライトに開設する夜間クラスでは、仕事を終えた現職教員が学んでいる。

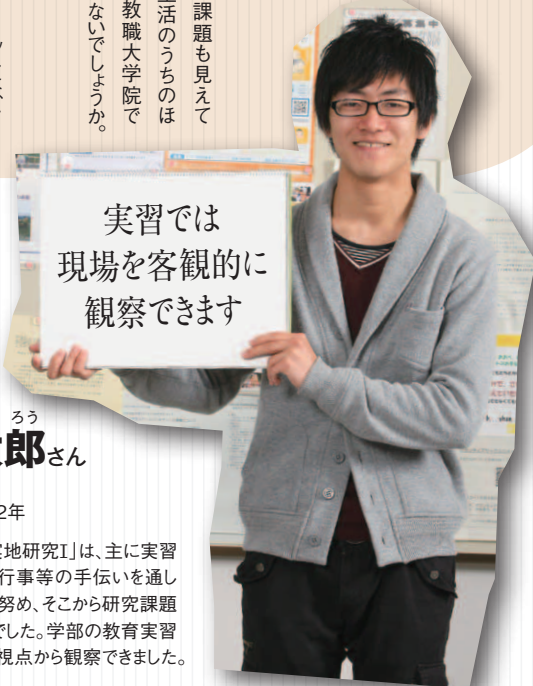
黒石教授

学生たちは口々に「学校現場を客観視できるようになった」と言います。当然、現場にいた時には気

付かなかった新たな課題も見えてきます。長い教員生活のうちのほんの2年間ですが、教職大学院で学ぶ機会は重要ではないでしょうか。

新井教授

夜間クラスの一歩のメリットは、その日に現場で起きた課題について大学教員と一緒に解決策を考え、翌日には実践に移せることです。1日2限だけの授業とはいえ、その中身は非常に濃いものがあります。



外川孝太郎さん

(ストレートマスター)
心の教育実践コース2年

1年次後期の実習「実地研究I」は、主に実習校での日々の観察や行事等の手伝いを通して生徒の現状把握に努め、そこから研究課題を見つけているというものでした。学部の教育実習とは異なり、客観的な視点から観察できました。

今だからこそ
得られる新たな
学びがある!

田中克人さん

(特別支援学校教員歴22年)
心の教育実践コース2年

特別支援教育の視点で考えてきた子どもの諸問題の解決策を通常学級に応用したいと考え、通常教育についてより専門的に学べる教職大学院を選びました。これまで学んできた内容とは少々異なる部分もあって戸惑う半面、新たな学びも多々あります。

これからの課題

今後、教職大学院は教員養成の高度化(修士レベル化)を担う中核として、教科指導や教科専門、特別支援教育等を取り込んだ新しいカリキュラムや指導法を開発していくこ

とが求められる。また、カリキュラム開発、大学院入学や教員採用などについて、教育委員会との連携・協働のシステムを構築することが必要となるだろう。



教職大学院での学び



よし ずみ かず や
吉栖和哉さん
(小学校教員歴17年)
授業実践リーダーコース2年

学校現場では教科内容をどう解釈し教えるかという視点で考えていましたが、教職大学院で児童の思考や認知の過程について学んでいくうちに、教科・領域固有の内容と児童の思考過程を分析し、両方の接点を見つけて実践しようと考えられるようになりました。

今年度で創設5年目を迎えた兵庫教育大学の教職大学院。学校現場での実習を重視した学びは実践力を育み、修了生たちは全国の学校や教育委員会で活躍している。黒岩督教授（授業実践リーダーコース長）、新井肇教授（生徒指導実践開発コース長）のコメントを交えながら、教職大学院の現況や成果、今後の課題について検証する。

キャリアに応じたコース設定

平成20（2008）年、兵庫教育大学は教育実践高度化専攻として教職大学院を創設。「学校経営コース」「授業実践リーダーコース」「心の教育実践コース（現生徒指導実践開発コース）」「小学校教員養成特別コース」の4コースを設け、新任教員からミドルリーダー、学校経営リーダーまで、キャリアアごとにきめ細かなカリキュラムを用意している【表参照】。

黒岩教授

授業実践リーダーコースと生徒指導実践開発コースは主に中堅教員・ミドルリーダーの養成を対象としています。授業実践リーダーコースでは、実践的指導力を備え、学校での授業開発で指導的役割を果たせる人材の育成を目指します。

新井教授

生徒指導実践開発コースでは生徒指導、教育相談、キャリア教育、道徳教育、学級経営、特別活動・地域連携の6分野にまたがる実践力を身に付けます。



学びの特徴と修士課程との違い

教育課程は全学生が履修する共通基礎科目、コースごとの専門科目、学校現場等での実習科目で構成。特に実践的指導力の強化を図り、全50単位のうち10単位以上を実習に割り当てている。学生は実習先の教員とのアクション・リサーチなどを通して、

学校現場の課題解決に努める。

黒岩教授

修士課程でも教育実践研究が行われますが、現場での実

新井教授

践は必須ではありません。教職大学院では実践の成果を現場での実習を通して検証していきます。そのあたりの差が、教育実践高度化専攻の、高度化に込められていると考えます。

教職大学院での学びは課題解決型です。修士課程が専門的に学んだ学問を課題解決に応用するのに対し、教職大学院は課題解決のためにさまざまな学問の理論や知を総合して実践的なプログラムを組んでいきます。

【表】キャリア別の人材養成

キャリア別	対象コース	養成する人材
学校経営リーダー養成	学校経営コース	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来の校長や副校長、教頭などの学校経営専門職 ● 学校経営を支援する指導主事、管理主事などの教育行政専門職
ミドルリーダー養成	授業実践リーダーコース* <small>※平成25(2013)年度から「授業実践開発コース」に名称を変更</small> 生徒指導実践開発コース* <small>※平成24(2012)年度に「心の教育実践コース」から名称を変更</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校現場で指導的役割を果たすメンター教員 ● 学校の授業実践改革で中心的な役割を果たす教員 ● 生徒指導や学級経営などの「包括的児童生徒支援」を推進できる実践力を備えた教員 ● 「包括的児童生徒支援」のための実践研究・プログラム開発に中心的役割を果たす教員
新任教員養成	小学校教員養成特別コース 授業実践リーダーコース* 生徒指導実践開発コース*	● 新しい学校づくりの担い手となる新任教員



やま もと ゆ り こ
山本有里子さん
(ストレートマスター)
授業実践リーダーコース2年

教職大学院の一番の魅力は、熱い思いを持った現職教員の院生方と共に学べることです。教員も学生も皆で支え合う温かい雰囲気の中、ここでしか学べないことが本当にたくさんあります。教職大学院での学びは、将来、教員としての自分を支える「軸」になると確信しています。



にしむらじゅんいち
西村純一さん

平成22(2010)年度修了
尼崎市立大庄北中学校教諭

時代に対応し続けるためには
学ぶ機会が不可欠です

教職大学院では、中学校での暴力行為を予防するために全校で取り組むプログラム「SVP P (School Violence Prevention Program)」を開発し、学校現場で実践しました。その結果、教員個々の危機管理意識が向上して生徒に対する関わり方が変わり、生徒にも変化が起きるということが分かりました。実習を通して生徒指導の理論を深く学んだことで、同じ事態が起きた時に入学前よりも的確にかつ自信を持って実践できるようになったと思います。

教職大学院だからできる
学びと実践の統合

メッセージ



あさのりょういち
浅野良一

教育実践高度化専攻副専攻長

平成2(1990)年、兵庫県公立中学校教諭(保健体育)に。尼崎市立南武庫之荘中学校で生徒指導主任を6年間務めた後、21(2009)年に心の教育実践コース*に入学。23(2011)年から現任校で学級担任と学年生徒指導を務める。

*生徒指導実践開発コースの旧名称

手教員のメンター的な役割を期待されています。教職大学院で学んだことが仕事に役立っていることは多々あります。特に、生徒へのアプローチや理解が広がったこと、職場の同僚や先輩に対してのサポートができるようになったことは大きな変化です。

教職大学院で学んであらためて実感したのは、目まぐるしい時代の流れに対応するために研修会や研究会は欠かせないということです。現場の教員もその意識を持っています。日々の多忙によって時間をつくれないのが残念でなりません。



しつおかよ
失尾圭代さん

平成22(2010)年度修了
私立奈良学園小学校教諭

実習先のメンターから学んだことが
心のよりどころになっています

以前の職場にいたころ、自分にとってやりがいのある仕事とは何かを考えました。しかし、資格もなく、持っていたのはお茶とお花の御免状と、少しだけかじった農学やランドスケープの知識のみ。自分の知識や経験を発揮できる場所で働きたいという思いと教職大学院の存在を知ったタイミングがぴったり合ったことが、教員の道に進む第一歩でした。

教員になるという同じ夢を持った友人と共に学ぶのは本当に楽しかったです。ゼミでは研究を進めていく中で、授業を考える際に研究的視点を持って取り組む意義と楽しさを教えていただきました。実習先のメン

平成18(2006)年、大阪府立大学大学院修了後、奈良県農業協同組合に入組。21(2009)年に退組し、小学校教員養成特別コースに入学。23(2011)年から奈良学園小学校に勤務。

ターの先生からは授業方法のほか、教員としての心構えや学級経営の実践方法なども学びました。今でもへこたれそうになった時、友人や教授、メンターの先生の言葉や実習を思い返して、頑張ろうと奮い立たせています。

授業以外ではアルティメット・フリスビーを楽しんでいました。担任をしている子どもたちにその話をしたところ、「やりたい、やりたい」の大合唱。体育の時間にドッチビーで試してみたいところ、本當にうれしそうでした。これも教職大学院で得たことが実践につながっているのかなと思います。

修 了生のコメントは、専門職学位課程である教職大学院の特徴をよく示しています。第1は、学びの成果を発揮する場所であると同時に、学びのフィールドとしての学校や授業、子どもたちの存在です。学びと実践の統合、まさに「知は行の始めにして行は知の成なり」であり、10単位の分の

長期の実習も効果的だと感じました。第2に、学生たちはゼミ等の個別指導を通して、それぞれに理論を学び研究することで現場を見る視点を確立しています。またそれは視野の広がりにもつながっているようです。そして第3は、学習集団(コーホート)の存在です。教職大学院はほとんどの科

目をコースの全学生が履修します。その結果、校種やキャリアが異なりながらも、相互に交流・研鑽に励むことで、大学院には珍しい「学級」のような集団が生まれます。それは単なるクラスの仲間ではなく、「学びの道場」ともいえるものです。修了生のますますの活躍と在学生の刻苦勉勵を期待します。

学校現場で活躍する修了生たち

入学前と修了後の変化

学校経営コース



そね ひでとも
曾根英智さん
平成22(2010)年度修了
伊丹市立高等学校教頭

昭和60(1985)年、兵庫県立高校の教諭(英語)となる。兵庫県立川西北陵高校の主幹教諭になって1年後の平成21(2009)年学校経営コースに入学。今年度から現職。

研究で得た知識が後輩の指導に役立っています

主幹教諭になって1年後、学校経営コースに派遣されました。主幹教諭とはこうあるべきだという自分なりの考えを持っていましたが、内心は果たしてこれでいいのだろうかと不安もありました。教職大学院では、実践(学校現場)と理論を往復する形でさまざまな角度から学校を捉え、改善する視点や方策を学ぶ上で、常にどの場面でも「主幹教諭ならどうするか」という視点で考えるように心掛けていました。

在学中は大学からの研究助成金とベネッセからの研究奨学金を受けられ、東京都や神奈川県、広島県など主幹教諭の配置先進地へ出向き、主幹教諭や管理職、指導主事か

ら話を聞きました。自治体によって主幹教諭の活用の仕方が異なり、主幹教諭の制度設計や主幹教諭が導入された意義、学校における役割など、あらためて主幹教諭の在り方について熟考できました。

現任校には2人の主幹教諭がおり、彼らの働きなくして学校は前へ進みません。しかし、彼らの姿には、教職大学院に入学する以前の私自身と重なる部分があります。東京都のある教頭から「主幹教諭を育成するのは教頭の役目」と教えていただいたことは、まさに今自分に投げ掛けられた命題。毎日、彼らに私の思いを伝えようと努力しています。

授業実践リーダーコース



ながの まさあき
長野正明さん
平成22(2010)年度修了
大分県中津市立緑ヶ丘中学校教諭

平成6(1994)年、大分県公立中学校教諭(数学)となり、21(2009)年授業実践リーダーコース*に入学。23(2011)年現任校に復職する。

広い視野を持って学校運営に関われるように

授業実践リーダーコースでは実践的な授業論だけでなく、学習指導要領の変遷など日本の教育を時間軸で考えていく視点も学びました。学校経営や関連法の視点から学校を見ていく授業によって、それまで見えていたつもりだった学校組織が実は狭い視野でしか見えていなかったことに気付きました。心理学の観点から生徒の行動を分析する授業も興味深いものでした。また、さまざまな経験を持つ他コースの人たちとの交流を通して、それまで平面的に見ていた学校の全体像が立体的に変わっていきま

した。「授業実践」を教育社会心理学的に研究するゼミを選び、現任校が数年にわたって取り組んでいる「子どもたちの小集団活動と学習の成果」を自らの研究テーマとしました。2年間のゼミを通して、数学科の授業での小集団活動が子どもたちの学習と子ども同士の人間関係に一定の効果をもたらすことが分かりました。同時に、研究の難しさと重要性も知りました。

現任校に戻って1年が過ぎました。まだ教職大学院での経験をフルに生かしてはいませんが、忙しい日々の中でも、3年前よりも確実に広い視野で学校運営に関わり、生徒たちとコミュニケーションが取れていると実感しています。

